

とよはまこう

豊 浜 港 （ 県 管 理 地 方 港 湾 ）

豊浜港は香川県の西端、綿の町として知られる豊浜町に位置しています。

本港は、江戸時代、背後で新田の開拓、綿の栽培等が進み、発展の基礎が築かれ、海上交通も盛んになってきたことから、港湾改修への熱意が高まり、当地の住人が官府に上申して私費により築港したのが始まりです。

以後、瀬戸内海の海上交通の要衝として、近畿、中国、九州方面とも広く交易を行い、港を中心として発展を続けてきました。

本港の近代港湾としての整備は大正8年の第1期修築工事に始まり、以後、数次の改修を経て現在に至っています。

また、昭和に入っては国の基幹産業の育成政策により工業化が進められ、昭和12年には港湾改修とともに造成された埋立地に、紡績工場が進出したほか、昭和52年には8haの埋立が完成し、紙製品の工場も進出しています。さらに平成元年には約15haの埋立工事も完成するなど、今後はさらに、背後に四国横断自動車道も開通しているという海陸のすぐれた交通立地特性を生かしながら、西讃地域の流通、生産の拠点としての本港の発展が期待されています。

